

宮城県言語聴覚士会

宮城県リハビリテーション専門職協会 設立記念式典報告

宮城県言語聴覚士会 会長 遠藤 佳子

去る平成28年10月1日、宮城県仙台市にて、宮城県リハビリテーション専門職協会設立記念式典および記念講演会が開催されました。

宮城県リハビリテーション専門職協会は、一般社団法人宮城県理学療法士会、一般社団法人宮城県作業療法士会、および当宮城県言語聴覚士会の3団体によって平成28年7月1日に設立されました。地域包括ケアシステムの構築を念頭に置いて、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）が「リハビリテーション専門職」として連携する、ということがその趣旨です。他団体からのリハビリテーションに関する問い合わせの窓口という役割も持ち合わせています。



開会の辞を述べる当代会長



祝辞を述べられる
深浦会長

数々の心強い応援

設立記念式典には、宮城県の山田義輝副知事をはじめ多くの関連団体でご列席くださいました。日本言語聴覚士協会の深浦順一会長もお忙しい中駆け付けてくださり、ご祝辞をくださいました。日本言語聴覚士協会がわれわれを応援してくださっていることを実感し、本当に心強く思いました。記念講演会では、三菱UFJリサーチ&コンサルティング社会政策部長の岩名礼介様が「地域包括ケアシステムにおいてリハ職へ期待すること」という題でご講演くださいました。ご自身の介護の経験を交えたそのお話は、とても理論的で実践的でした。自分たちの地域での役割を再度実感し、身の引き締まる思いでした。

式典終了後に
深浦会長を囲んで

3士会が手を取り合って

本会の設立には、3士会が名実ともに協働できると有望視する一方で、懸念することもたくさんあります。PTの県士会員は当会の7倍、OTは3倍ほどおり、すでに地域に根付いて活動できている部分もあります。そういった立場や経緯の違いが意見や価値観の違いとなって出てくることは少なくありません。しかし、話し合いを重ねる中で、3士会が互いにリハ職として信用し合っていることも徐々に実感することができるようになってきました。

より地域に根差す専門職に

現在、地域リハビリテーションを考える中で感じていることは、PT、OT、STといった「リハビリテーション専門職」について地域ではあまり知られていないということです。地域の方々が多くが「リハビリテーションとは病院の中で特別な患者さんにのみ行われること」と認識していることを意味していると思います。しかし、これからは、「健康に過ごすために誰にでも必要なこと」と認識を改めていかなくてはなりません。それは、地域の方々にはもちろんのこと、リハ職、特に所属機関のほとんどが病院であるST自身もその認識を変えていかなくてはなりません。地域への参入の経験があるPT、OT県士会の助言をいただきながら、リハビリテーション専門職、およびSTの地域での活躍を支援していきたいと思います。

